

たて つき 楯 築 遺 跡

Preliminary版

(2世紀後半)

～弥生時代の吉備を代表する大型墳丘墓～

目次

1. おすすめポイント
2. 現地の説明板
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. 旋帯文石
6. (参考) 出雲と吉備の交流
7. アクセス

資料
番号

K1

初版：2025.10.22 (仮)



1. おすすめポイント

★充実の現地説明板

「ふーん、ほんとだ。石が楯のように立ってる！」
だけではもったいない！ 是非この遺跡の凄さ、
不思議さを説明板で味わってください

★立石

尋常ならざる立石にこめた弥生人の「思い」
を考えてみて！

※レプリカではなく「本物」です！

★旋帯文石

↓
収蔵庫の「のぞき窓」からご神体の「旋帯文石」を
見ることができます。 この文様にこめられた
弥生人の「情念」を想像してみてください！
破砕された状態で発掘された弧帯文石との関係も！

(注) 「旋帯文石」は文化庁により名づけられた。文としては旋帯、弧帯とも同じものを指す

2. 現地の説明板

駐車場にある説明板▶



2-1

2021.8

2-2

説明文
部拡大

たてつきいせき Tatetsuki Ruins

楯築遺跡

ここ吉備地方には、大和朝廷が派遣した吉備津彦命が人々を苦しめた鬼神（温羅とも呼ばれる）を退治した伝説が残り、昔話「桃太郎」の原型になったとされています。

この楯築遺跡の上には5つの巨石が立っています。伝説の中でこの巨石は、命が温羅の矢を防ぐために築いた楯とされ、名称の由来となっています。

楯築遺跡は、弥生時代後期（2世紀後半）の墳丘墓です。推定全長は約80mと当時の墓としては国内最大規模で、墓の主は強大な権力を持っていた人物と思われます。当時は楯築遺跡がある丘のふもとと近くまで海が入り込んでおり、瀬戸内海を通じた大陸との交易により、力を蓄えたと考えられます。

There is a legend in the Kibi area that tells of how a prince of ancient Japan named Kibitsuhiiko-no-Mikoto vanquished an ogre god (also known as Ura) who tormented the people. This legend is thought to be the model for the famous Japanese fairytale Momotaro.

Five great stones stand above Tatetsuki Ruins. In the legend, these are said to be shields that Kibitsuhiiko-no-Mikoto constructed to defend against Ura's arrows.

It is thought that these ruins, built in the second half of the second century, were the tomb of an enormously powerful person; at around 80 m long they would have been the largest in the country at the time.



地図部
拡大

日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会

2-3

◀ 遺跡手前の休憩所にある説明板

2-4

2021.8



説明板 (左) 拡大

2-5

たて つき い せき
楯 築 遺 跡

国指定史跡
昭和56年12月9日指定

JAPAN HERITAGE
「縄文器土器」の宝庫たるまろやま
～古代吉備の遺産が語る風土の物語～

弥生時代後期（2世紀末頃）に造られた墳丘墓。墳丘は、やや歪んだ円形を呈する円丘部とその両側に長方形の突出部をもつ特異な形をしています。突出部の大部分は、昭和40年代に行われた住宅団地造成の際に破壊されました。消滅した突出部を含む全長は約80mと推定され、同時期の墳丘墓では全国でも最大級の大きさを誇ります。

昭和51年から平成元年にかけて、岡山大学考古学研究室が中心となって発掘調査を実施し、遺跡の全体像が明らかとなりました。

5個の巨大な立石がある円丘部からは、2基の埋葬施設が確認されました。このうち中心主体となる埋葬は、円丘中央部に掘られた長さ9mの巨大な墓壇を伴い、木棺の外側を木の板で囲んだ木棺木槨構造であることがわかりました。木棺内には鉄剣1口と、勾玉や管玉、ガラス製小玉などの玉類が副葬されていたほか、歯の薄片2点も検出されました。また、棺の底には、

総重量32kgを越える大量の水銀朱が分厚く敷き詰められていました。木棺の上方は大量の円礫で埋め戻されており、その中から、特殊器台や特殊壺といった供献土器をはじめ、人形土製品や土製の玉類などが出土しました。また、墳丘の脇にある収蔵庫に納められている旋帯文石（国指定重要文化財）と同様の文様を持つ小形の石（弧帯文石）が、意図的に割られた状態で発見されており、このふたつの石の関係が注目されます。

南西突出部の調査では、その先端が給水塔のフェンスの下に残存していることが明らかとなり、平らな面を外側にして立てられた列石が良好な状態で検出されました。また、突出部の前面では、尾根を切断するように掘られた大溝も確認されており、墳丘墓の造営がかなり大規模なものであったことがわかります。

楯築遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての墓制の変遷を考える上で重要な遺跡であるとして、国の史跡に指定されています。

倉敷市教育委員会

説明板 (中) 拡大

2-6

Tatetsuki Ruins

The Tatetsuki Ruins site is a burial mound constructed during the late Yayoi period (near the end of the 2nd century). It is constructed in the characteristic shape of a circular area nearly 40 meters in diameter with rectangular areas jutting out from both sides. Its full length is estimated at approximately 80 meters, and is one of the largest burial mounds in Japan to be constructed during this period.

On the mound stand five massive stones, and in the past, round stones were spread on the slopes. In the center of the circular area, a large 9-meter-long grave was dug, with a wooden coffin put inside. An iron sword, gems, and other burial items were discovered in the wooden coffin, with numerous pieces of cinnabar spread around its bottom. Peculiar kotaimonseki stones—stones inscribed with circular band patterns—were also discovered and received attention for the way they were deliberately cracked.

This is a vital site in knowing the changes of burial practices occurring in this region from the Yayoi period to the Kofun period (around 400 BC–AD 700).

① 墳丘断面図

② 墳丘遺跡全景図

③ 甕から出土した木棺（重さ約9m）
木棺は腐って残っていないが、その形状によってその大きさがわかる（木棺長さ約9m）。

④ 甕から出土した木棺（重さ約9m）
木棺は腐って残っていないが、その形状によってその大きさがわかる（木棺長さ約9m）。

⑤ 甕から出土した木棺（重さ約9m）
木棺は腐って残っていないが、その形状によってその大きさがわかる（木棺長さ約9m）。

⑥ 甕から出土した木棺（重さ約9m）
木棺は腐って残っていないが、その形状によってその大きさがわかる（木棺長さ約9m）。

⑦ 甕から出土した木棺（重さ約9m）
木棺は腐って残っていないが、その形状によってその大きさがわかる（木棺長さ約9m）。



2-7

2021.8



2-8

※給水塔は撤去されて
今はありません

「旋帯文石」収蔵庫

2021.8

2 追. 現地の説明版（捕捉）

以下、本遺跡の特徴、意義を「宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より部分引用させていただきます。

この遺跡の「凄さ」を感じ取ってください！

- ・遺跡が築かれたのは弥生時代後期後葉（2世紀後半）
最初的前方後円墳が築かれるより100年近く前
- ・**大柱**＜推定高さ10mレベル＞は**九州**で発達した墓の付属施設（九州以外でこれが設けられたのは本遺跡のみ）
- ・埋葬施設を挟むように**木柱**が2本
- ・南西突出部には中心埋葬に次ぐ規模の埋葬が所在
（**方形部も埋葬の場**として重要な位置づけ）
⇒**古墳の前方部の原形となった**と考えられる
- ・中心埋葬の上には**円礫堆**が作られていた
円礫堆に含まれる遺物は葬送の祭祀に用いられた器財二度と使われないよう焼いたり割られたりしている
- ・**木槨**は中国で成立、発展した埋葬施設
木棺に敷かれた朱は被葬者の頭部で最大厚さ8cm、用いられた**朱の量は32kg**、後の古墳での大量使用例を含めても屈指の量
- ・木槨の被葬者頭部側の外側には**排水溝**が設けられている。
⇒木槨、排水溝など**大陸由来**の埋葬施設は倭国で初現

- ・弥生墳墓として土器出土量は全国一レベル
（土器を置く清浄な面として円礫が敷かれた）
墳頂ではうかつに歩くと土器を踏みつぶしかねない状況、
墳丘斜面にも**後の円筒埴輪列を思わせるような土器のベルト**がめぐっていた。 ⇒空前の規模のまつり

葬送の思想

- ・旋帯文石の顔は神の顔であり、神が宿るもの、神の依代として作られた
- ・大柱など柱群は神に来てもらうための施設
- ・死後「たましい」は魂と魄に分かれ、魂は天に帰し魄は地に帰す（古代中国の思想）。魄は地中の木槨内にとどまり、魂は神となって旋帯文石に宿ると信じられたのではないか

遺跡の諸要素

【それまで吉備でつちかわれたもの】

- ・ **特殊器台や特殊壺** ⇒ **古墳の要素として引き継がれる**
- ・ **弧帯文（旋帯文）**
- ・ 斜面の列石

【他地域から導入されたもの】

- ・ 木槨（大陸から）
- ・ 大柱（北部九州から）
- ・ 墳丘の丸い平面形（播磨あるいは摂津地域から）

【新たに創出されたもの】

- ・ 大きく立体的な墳丘を築き、**「見せる」要素**
- ・ **円礫敷と立石**

以上、「宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より部分引用

3. 現地写真

2020.8



3-1

立石 1～4 で囲まれるエリアには木造の建物があったようです (※)

2020.8



3-2

中心埋葬と木柱、大柱の位置概略 (※)

※「宇垣 匡雅. 橿築遺跡 (新日本の遺跡4). 同成社, 2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図



2021.2

墳頂部

3-3



2021.2

立石 3

3-4

斜面立石

▼立石 4 ▼立石 1 ▼立石 2 ▼立石 3

2021.2

北東突出部の名残
の列石



3-5

4. 「鳥の目」で

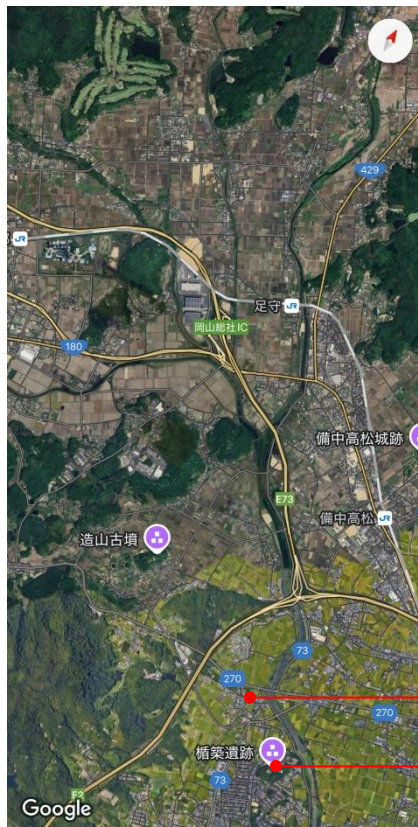
2021.2



4-1

給水塔は撤去されて
今はありません

北方を望む



4-2

鯉喰神社 (弥生式墳丘墓)

楯築遺跡

2021.2

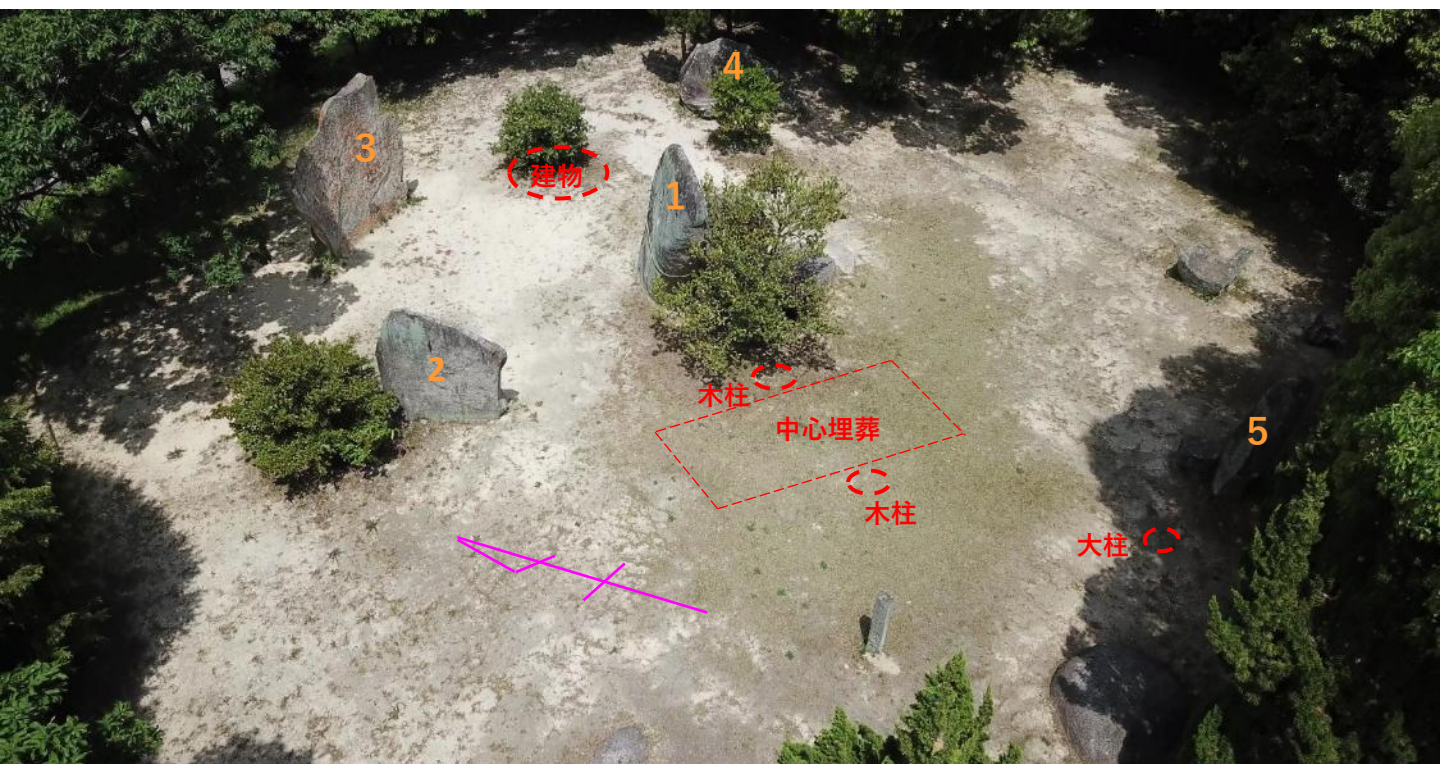


4-3

当時は南方近くまで海岸線が迫っていた。遠方の早島丘陵は完全な「島」だった。
東・北・西からは墓が良く見えたはず

南方を望む

2020.5



4-4

立石の配置、施設の配置

※「宇垣 匡雅, 楯築遺跡 (新日本の遺跡4), 同成社, 2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図

5. 旋帯文石

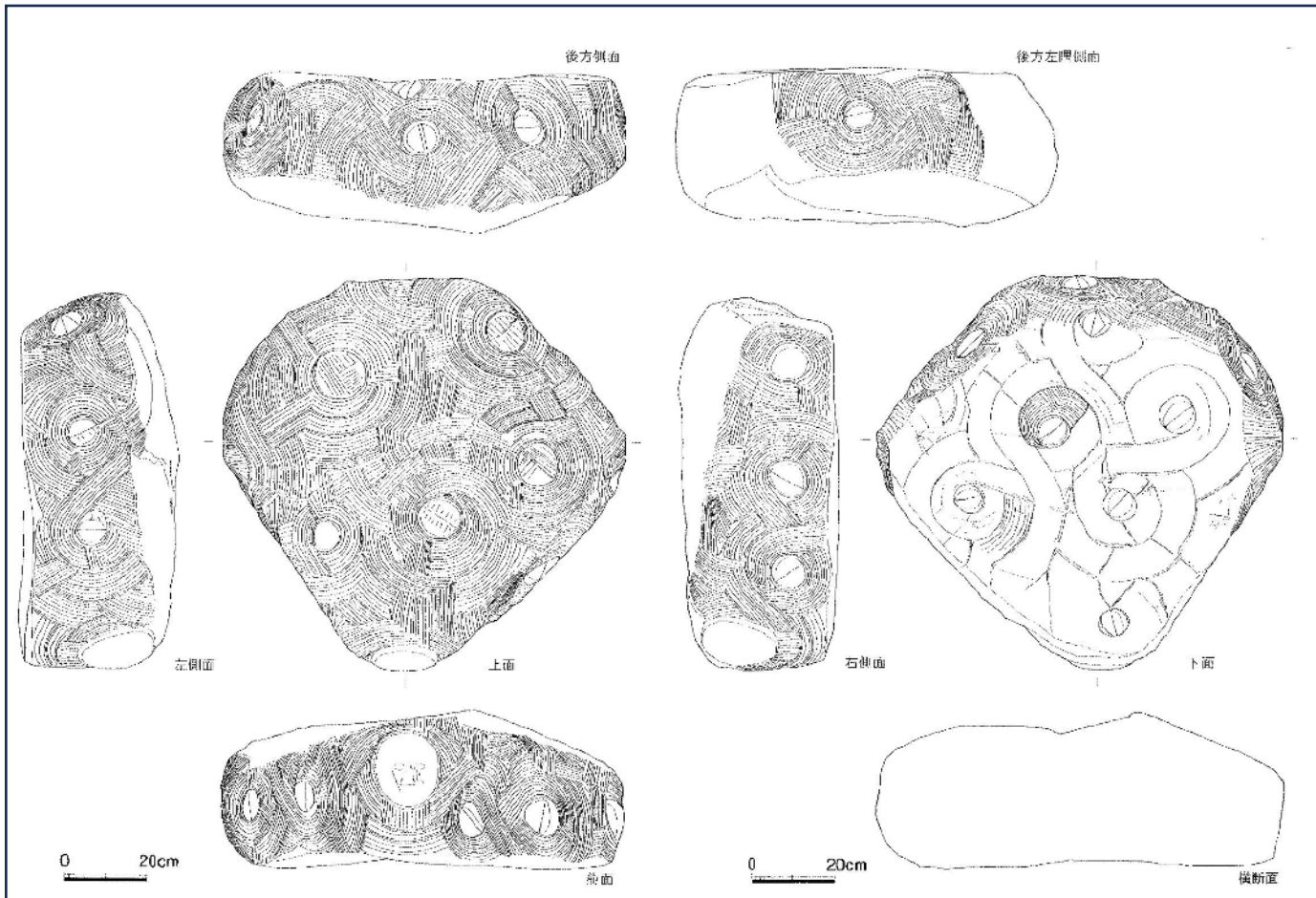
忘れられたこともあったかもしれませんが、こうして
**2000年近く「ゆかりの地」で地元の方々に大切に守り継
がれてきた**ことは尊く、奇跡のように感じます。

▶
現地説明板上写真



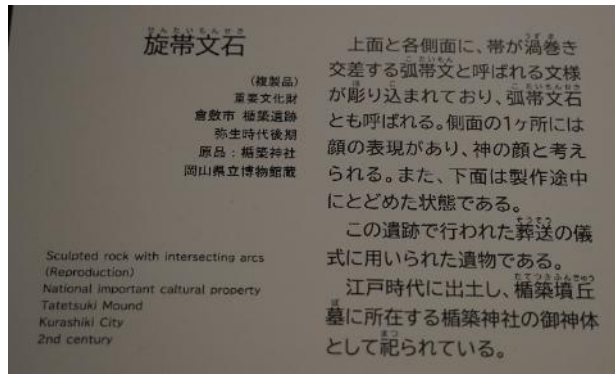
5-1

※ 下図 「宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より引用



5-2

後楽園に隣接する**岡山県立博物館**では下写真のように旋帯文石のレプリカを常設展示しており、じっくり観察することができます。驚きの文様に秘められた情念を想像してみてください。



5-3

2025.4



5-4

↑
顔の表現



5-5

顔に対して左側面



5-6

顔に対して右後方（反対面）

5 追. 旋帯文石（捕捉）

～旋帯文（弧帯文）石の不思議～

顔（神の顔？）の表現を
持つ旋帯文石はそのまの
姿で後世に伝わり
焼き砕かれた小ぶりの
弧帯文石は土に埋もれ
現世に発掘された。

5-7



現地説明板右上写真

ご神体として守られてきた旋帯文石

この**2つの石の使い分け**には
どのような情念が働いたのだろうか？

時が経ち、朽ち果て
た木槨、木棺の空間
に**円礫堆が陥没**して
土に埋もれた状態
で発掘された

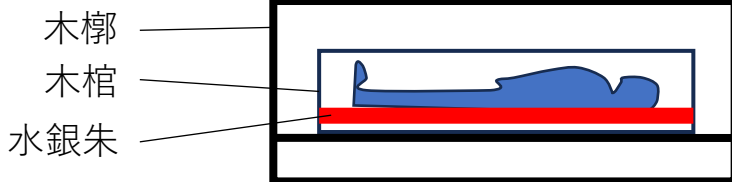
- ・円礫
- ・**破碎された弧帯文石**
- ・土器片、土製品片
- ・鉄器
- ・モモなどの種子炭化物
- ・サヌカイト片

円礫堆

地面

関係は？
どのような
情念で？

出土した弧帯文石



5-9



（現地説明板より写真⑫）

5-8 ※「宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」の内容をもとにイメージ作図

焼き砕かれていた

大きさは旋帯文石の1/9程度。
旋帯文石と同様の文様が施さ
れている。

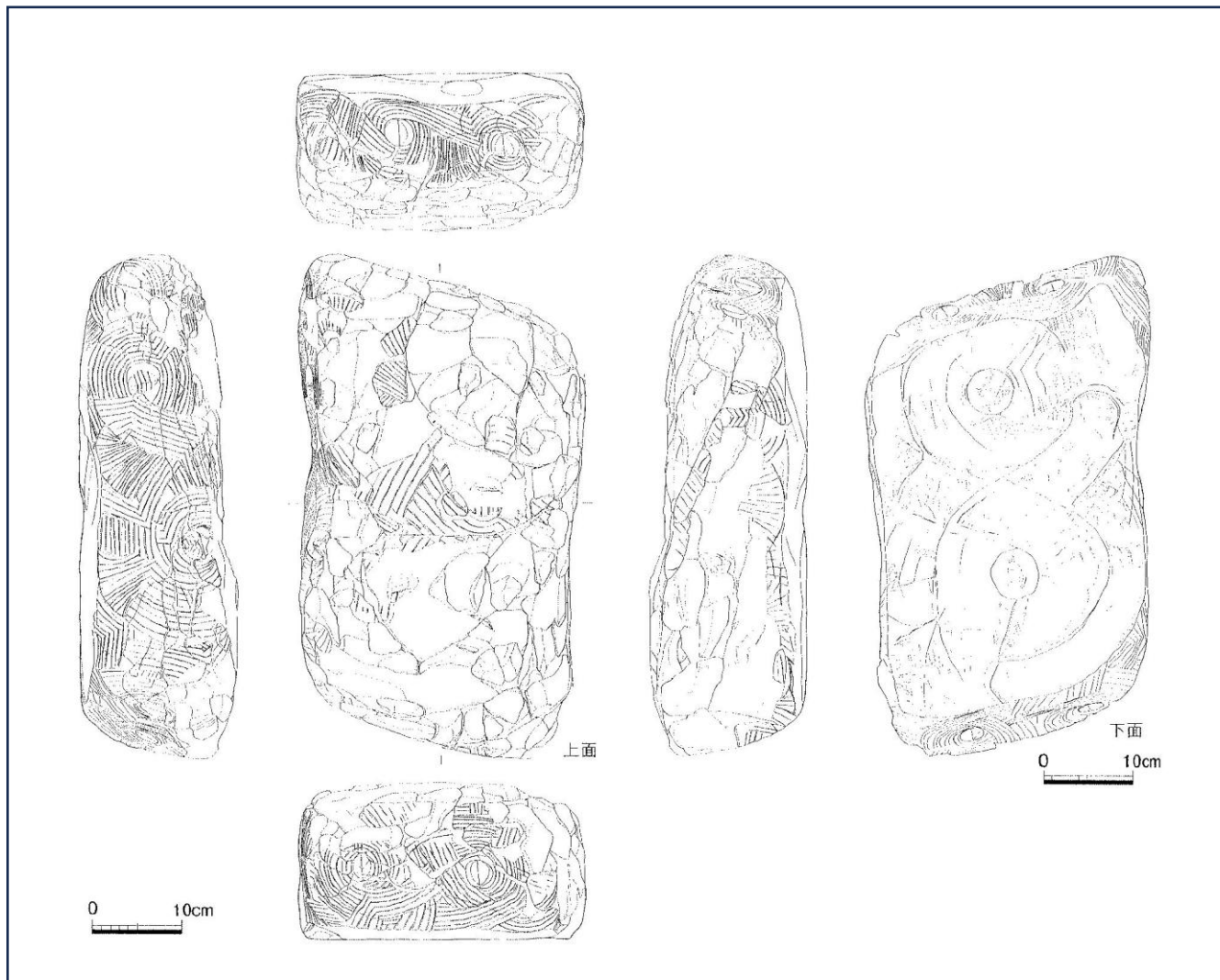
破碎された状態で出土した弧帯文石



5-10 (現地説明板より写真⑫)

左写真では半ば復元されていますが、参考文献1によると葬祭時に**焼き砕かれ**、前頁のように木棺の上の位置に他の物と一緒に小山のように盛られていたようです。復元には大変なご苦労があったとのこと。

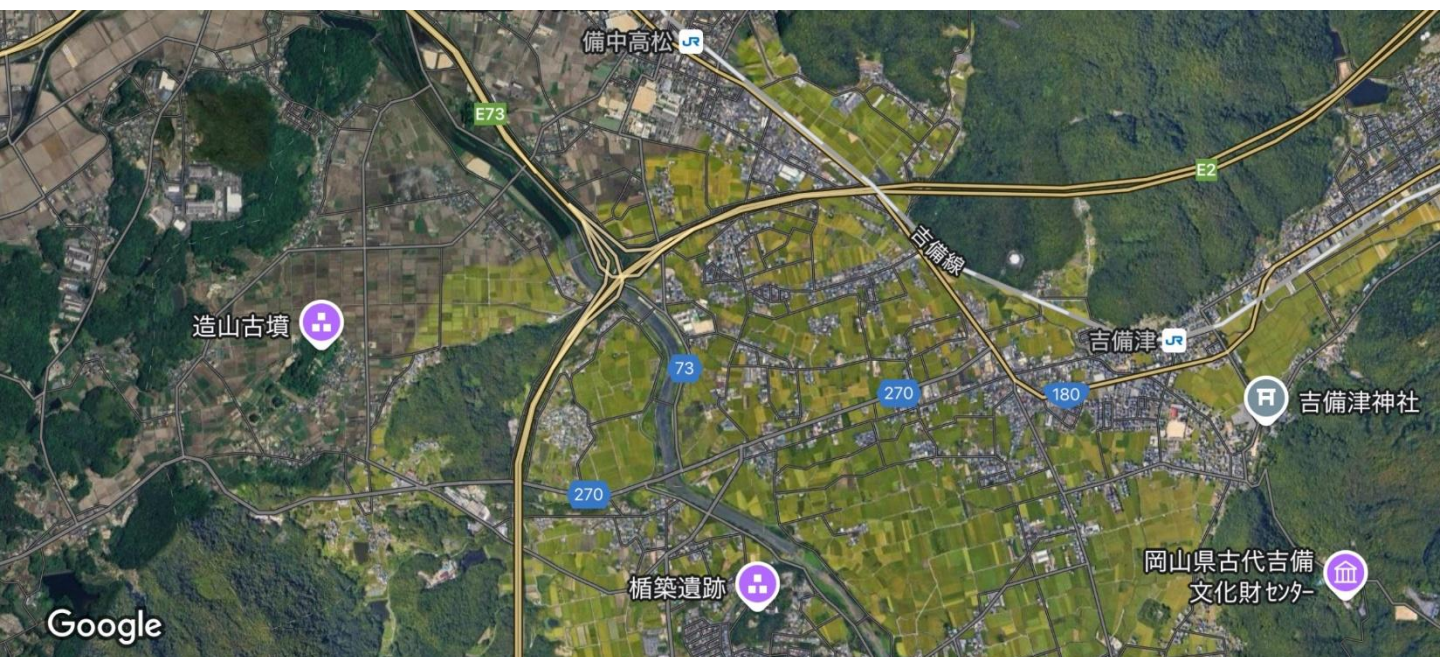
※ 下図 「宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.」より引用



工事中

7. アクセス

JR吉備津駅、備中高松駅 どちらからも車で約15分くらいです



7-1

駐車場もあります



7-2

参考文献

- 1) 宇垣 匡雅. 楯築遺跡（新日本の遺跡4）. 同成社, 2024, 124p.